



5月のほけんだより

平成 28 年 4 月 28 日発行

軽野 保育園



新緑の美しい5月。元気にあそぶ子どもたちの姿に、さわやかな風が吹き抜けます。ゴールデンウィークを楽しく過ごしたあと、心身ともにちょっと不安定になることも。ご家庭と連携をとりながら、お子さんのようすに気を配っていききたいと思います。

虫刺され・植物かぶれ

暖かさとともに虫や植物の活動も盛んになってきます。触れると危険なものもありますので注意しましょう。

虫刺されも、植物かぶれも、まず絶対にかかないことが大切です。かいてしまうと傷から菌が入り悪化することや、とびひになることもあります。かき続けることで治りも悪くなってしまいますので、十分に気を付けましょう。



蚊
子どもの場合、蚊に刺される免疫が少ないため、水ぶくれができることもあります。刺されたら患部を洗い、30分以内に炎症をとる薬を塗ると、症状が軽くて済みます。

毛虫
毛虫の毛が皮膚に刺さって炎症を起こした場合は、患部にセロハンテープなどを貼ってはがすと毛が取れるため軽症で済むことがあります。また、直接接触なくても毛が皮膚に触るだけで強い皮膚炎を起こすこともあります。

植物かぶれ
植物の中には触れると発疹や水ぼうなどを起こすものもあります。(ウルシ・ハゼノキ・ヌルデなど) 一度、図鑑などで確認しておきましょう。
症状が出た場合、患部を触って広がらないように衣類を着替えたり、患部を流水で流し、かゆみ止めなどを塗ったりしましょう。
水ぼうは清潔なガーゼで覆います。患部を冷やすのも効果があります。患部が広がったり、かゆみが治まらない場合は受診しましょう。

ダニ
市販の虫刺され用の薬で効果があります。人によってはアレルギーなどで、全身に発疹が広がったり、ぜんそくや皮膚炎を引き起こす場合もあるので、その場合は受診しましょう。

ムカデ・ハチ
刺されるとすぐに強い痛みが出ます。腫れが強い場合は受診しましょう。以前にも同じ虫に刺されたことがあり、気分が悪い、息苦しいなどの場合にはアナフィラキシーショックの可能性があるので、早急に受診しましょう。

今年は例年に比べ、ハチの発生が多いと予想されています。もしもに備え、応急処置をご紹介します。

ハチに刺されたときの応急手当て

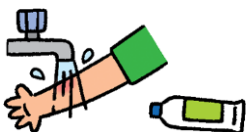
①針が残っていれば抜く

ハチの針が残っていたら、とげ抜きでそっと抜き、毒を口で吸い出す。



②よく洗って軟こうを塗る

流水でよく洗い、虫刺され用の軟こう(抗ヒスタミンまたはステロイド)を塗る。



③冷やす

はれたり、かゆみがあるようなら、保冷パックや冷たいタオルで冷やす。



ただし、呼吸が荒くなったり、けいれん等の症状が見られた時は大至急救急車を！！



尿検査のお知らせ

提出日 5月19日(木)

5月18日に検査キットを配布します。

朝起きてすぐ、排尿・排便の前に実施してください。

欠席のないようご協力をお願いします。